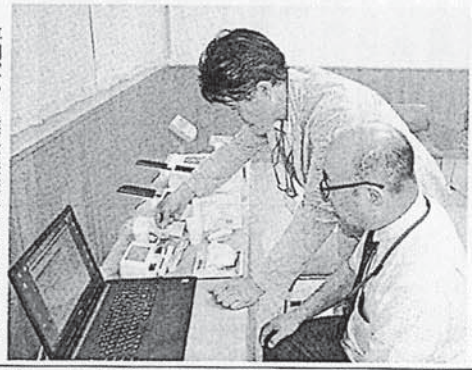
平成30年7月17日(火)　陸奥新報(3面)

口腔ケア まず意識

弘前・シバタ医理科が健康宣言

定期的に唾液検査 病気予防へ行動促す

弘前市で医療機器販売などを手掛ける「シバタ医理科」（阿部隆夫代表取締役社長）が、口腔ケアに着目して社員の健康意識を高める画期的な取り組みをスタートさせた。口腔環境を把握できる唾液検査装置での測定や専任歯科医師によるデータチェックにより、社員一人ひとりが口腔内の健康を定期的に認知する。同時に健康の基本ともいえる血圧、体重、歩数測定を毎日行うことで健康管理に努める。歯の健康から全身の健康へと意識を高め、会社の活力につなげる狙いだ。（成田真由美）



専門家から唾液検査装置について説明を受ける社員（手前）

短命県と言われる本県。がん、脳卒中、心臓病といった生活習慣病で働き盛りの命が奪われている現状から、〝短命県返上〟に向け、会社を挙げた健康づくりや子どもたちへの健康教育の大切さが指摘され続けている。

昨今の研究では、糖尿病を患う人は歯周病になりやすく、歯周病になると血糖コントロールが悪くなるといった知見が報告されるなど、口腔環境と疾病の結び付きも明らかになっている。「治すなら歯医者に行かないと」という認識ではなく、「予防のために歯医者へ」という認識が広まりつつある。

◆　◆

同社は2017年2月に弘前大学大学院医学研究科社会医学講座の中路重之特任教授の指導で、健診と啓発を組み合わせた新たな健診スタイル「啓発型健診」を試験的に実施。成果を検証する半年後のメタボリックシンドローム、歯科口腔など約60項目の健診では、10％近い減量に成功する例があったほか、歯科分野の効果として「口臭がしない」「歯磨きの回数が増えた」といった意識変化も確認できた。

今回スタートさせたのは①血圧②体重③歩数④歯科検診―の4項目。特に④は新たな取り組みだ。

唾液検査装置の導入により歯や歯茎の健康、口腔清潔度に関する口腔環境に特化した検査を行う。疾患の早期発見だけでなく、定期測定と専門歯科医師によるチェックや教育研修により、社員の病気予防につながる行動変化を促したい考えだ。

◆　◆

同社は4日、「健康経営宣言」を行い、社員約100人が「頑張ろう」と健康増進に向けて機運を高めた。併せて、中路特任教授や、口の専門家の同大学院医学研究科ヘルスケアマネジメント学講座助教和田啓二さんが講演した。

中路特任教授はこの中で「本質的に社員やその家族の幸せのためにやるが、大きな会社にリリースする役割も取り組むことで社会担う。宣言を短命県返上につなげてほしい」とエールを送った。

ひろさき健幸増進リーダーでもある阿部社長は「人材は財産といわれるように、社員の健康は企業にとって財産。まずは約1年かけて口腔領域を集中的にケアしていこうと考えている」と説明する。

企業が健康への取り組みを宣言することで、健康への意識啓発が難しいとされる働き盛り世代に対してのアプローチにもつながる。同社の成田牧子さん(35)は「会社で行うことで健康へのモチベーションも上がるし継続できる。家族も一緒に健康を考えるきっかけにし、短命県返上に貢献できればうれしい」と意気込んだ。

「健康経営宣言」に合わせ、社員や関係者約100人が一丸となって健康増進に取り組むことを誓った